

もしかして

話も聞かずに国税庁って
退屈そうな職場だと思い込んでいませんか？

実は

“データ・サイエンス”

“最新技術を用いたサービス向上”など

理工系人材が活躍すべき職場です

理工系人材のための
国税庁総合職「事務官」
採用案内



理工系人材が 国税庁で働く意義

セレンディピティ : Serendipity

求めずして思わぬ発見をする能力。思いがけないものの発見。運よく発見したもの。偶然の発見。英国の作家ホレス=ウォールポールによる造語と言われている。

国税庁の仕事って、どういうイメージをお持ちですか？電卓叩いて書類とにらめっこ？つまらなそう？

「税務行政」が対象とする範囲はどれくらいの広がりを持っていると思いますか？会計だけ？日本国内だけ？

国税庁の使命はとてもシンプル。「納税者の自発的な納税義務の履行を適正かつ円滑に実現する」の一言です。

納税者の皆さんが正しい金額の税金を自ら納めることができる社会・環境を創り出すべく、日夜、税務調査や納税者サービスに専心しています。

そんな税務行政は、特定の分野だけを相手にしておらず、「税」という窓から全ての経済取引・社会情勢を相手にしなければなりません。

最先端の金融商品や複雑な経済取引に対しても、自分たちで答えを出さなければなりません。昨今、シェアリング・エコノミー等の新たな経済取引が誕生していますが、それらに対しても即座に対応することが求められます。

そんな税務行政の喫緊の課題は、データ・サイエンスやICTを活用した税務調査・納税者サービスの高度化。

例えば、従来は“職人の勘”に頼ることのあった調査対象者の選定を、巨大なデータベースに蓄積された情報に基づいて自動的に行うことで、より効率的・効果的に行う。

また、納税者サービスについても、日本中で行われている年末調整や確定申告の手続きをデジタル化し、社会全体のコストを削減できないかアイデアを振り絞っています。

電卓叩いて書類とにらめっこばかりでつまらなそう？きっと「こんなことも担当しているのか」と驚くはずです。

守備範囲が狭そう？国税庁が相手にするのは、世の中で起こる出来事すべてです。関係ない世の中の動きなんてひとつもありません。

理工系のみなさん、国税庁総合職事務官の世界に足を踏み入れて、ぜひ裏切られてください。

もちろん、良い意味でね。





平成31年入庁

国税庁長官官房企画課
企画第二係 係員
岡田 侑真

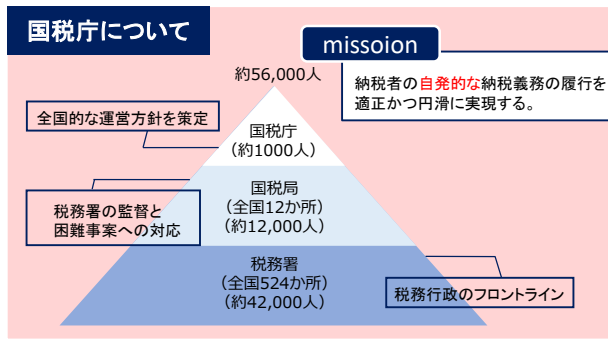
(情報理工学部卒)

■ 大学での研究内容

車を運転しているとき、バックミラー越しに見る後続車が実際よりも近く感じたことはありませんか？鏡に映るものは実際よりも近づいて知覚される現象があるのですが、その要因は未だに不明です。その要因を、情報技術を用いて探るとというのが私の研究でした。当時の最新AR（拡張現実）デバイスを用い、鏡をはさんで仮想的な像を提示することで、実像と鏡像を独立して動かすことのできる環境を構築し、認知実験を行っていました。

■ 国税庁に入った理由

官庁訪問時、税に関する知識はほとんどありませんでしたが、面接官からいただいた「学生時代に培った理系の考え方と、これから学ぶ税というマインドの二軸を併せ持った強い人材になれる」という言葉に心打たれ、国税庁に入庁しました。具体的な業務の中では、納税環境の整備として進められているチャットボットによる税務相談や、スマホ申告などに特に興味があり、システム関係の業務にぜひ携わってみたいと思います。



■ 国税庁に入った理由

生活のあらゆる場面に密着している「税」というものを専門として、総合職として様々な業務に携われる点に魅力を感じました。さらに、「税」の適正な賦課徴収という使命を負って業務に携わることを通じて、自らが主体的に、自分の暮らしている社会に対して責任感を持てる点について、非常にやりがいがあると感じました。

■ 理系のバックグラウンドが活かした経験

あらゆる面で活きていると感じます。
例えば、法律を読む場面や説明資料を作成する場面です。法律は一通りにしか読めないように、厳密な定義が置かれています。これは、プログラミングなどで変数が定義されているのに似ていて、法律を読み解いたり、説明資料を作ったりする場面では、プログラミングを読んだり作成した経験が非常に活きたと思います。
また、昨今では、EBPM（=Evidence Based Policy Making）が特に重要であるとされている中、データの解釈や分析などに比較優位がある理系のバックグラウンドは大変なアドバンテージになるのではないのでしょうか。

■ 今までで一番やりがいを感じた仕事

国税庁が実施している統計調査（民間給与実態統計調査）について、民間の回答者の負担を減少させるため、総務大臣に承認されている調査計画の変更を行ったことで、政府統計を所管する総務省との調整、統計学者等への説明、外部の有識者会議での審議対応など、様々なステップを経験しました。非常に多くの事業者に毎年生じている事務負担の削減に直結する業務でしたので、非常にやりがいを感しました。



平成23年入庁

財務省主税局税制二課
課長補佐
佐々木 辰実

(理学部卒)



平成12年入庁

国税庁長官官房会計課
課長補佐(総括)

三上 悦幸

(理工学研究科修了)

■ 国税庁に入った理由

歳入に占める割合が一番高い租税に関する仕事に興味があったこと、もう一つは、漠然とですが、国税庁では数字を扱うことが多い(理系的なセンスが必要なポストが多い)のではと考えたからです。

入庁後は、理系的なセンスがあまり求められないと思われる部署でも、思っている以上に理系的なものの見方・考え方が役立つことが多いことに気づきました。また、定量化、グラフ化などの工夫を積極的に行うことによって、関係者への説明等がスムーズに進んだこともあります。

■ 今までで一番やりがいを感じた仕事

今まで国税庁本庁だけでなく、国税局や税務署、他省庁や大使館で勤務する機会があり、それぞれのポストで今でも良い思い出(経験)となるような仕事に携わることができました。「一番」を決めることは困難ですが、直近の課税部での勤務では、中長期的な視点に立って、如何に課税部が限られたマンパワーで今後も国税庁の使命を果たしていくのか等を議論してきました。可能な限り定量的に現状及び問題点を表現した上で進むべき方向を多くの関係者と検討することは容易ではありませんでしたが、とても充実感がありました。

■ 理系のバックグラウンドが活かした経験

国際課税分野、特に移転価格・事前確認(APA)関連の事案を扱う際、国際的に事業展開する企業グループの収益構造や世界各国での税負担に係る分析は不可欠であり、統計の知識が非常に役立ちました。

また、国税当局は、最近特に様々なデータの活用を検討・模索しています。あるデータからどのような税務上の問題が推測されるか、また、どのような納税者を調査すべきか等、各種データを活用して分析しようというものです。ICTやAIの活用も課題となっている中、理系出身者の数学的・統計的素養があれば、大いに役立つと思います。

■ 今までで一番やりがいを感じた仕事

国際課税分野で二重課税解消等のために外国当局と交渉・協議したことです。相手国の交渉担当者も、中国やインドのカウンターパートはいずれも理系出身で、米国は哲学を学んだ人だったので、(法律・経済ではなく)数学系出身の自分が必ずしも特異な存在ではないという実感を持ちました。

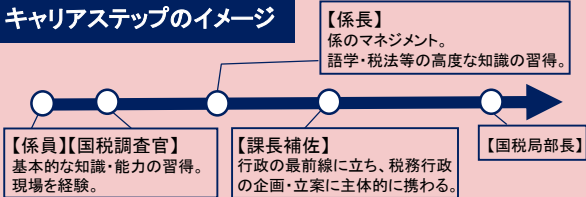


平成3年入庁

福岡国税局 総務部長
叙持 敏幸

(理学部卒)

キャリアステップのイメージ



FAQ

理工系でも事務官として採用されるの？

国税庁の業務は幅広く、様々な知識・スキルを持った人材を必要としています。理工系人材についても、その思考力・発想を活かして税務行政に従事してもらおうと積極的に事務官として採用しています。

採用されたらどんな仕事をするの？

他の総合職職員と同様に、税務行政の企画・立案に従事してもらいます。具体的には、税務調査や納税者サービスの高度化・効率化、国際交渉、税務署長としての現場指揮などに従事してもらいます。その中では、データ分析や最新技術を用いたサービス改善に従事する機会もあります。また、財務省に出向して税制の企画・立案に従事することもあります。

法律や経済に詳しくないけど大丈夫？

採用時点で、法律・経済はもとより税に関する専門知識は必要ありません。業務に従事する中や、各種研修の機会を通じて、専門知識を身に付けることが可能です。

専攻・学歴・年齢で制限は？

ありません。国税庁の使命に共感し、より良い税務行政を目指して働く熱意があることこそが重要です。

採用実績

	H29	H30	H31
総合職 事務官	8	11	7
うち理工系 学部出身者	1	0	1

「事務官」として、理工系人材も積極的に採用しています。
試験区分は一切問いません。

問合せ先

国税庁長官官房
人事課企画係(総合職採用担当)

E-mail saiyo@nta.go.jp
TEL 03-3581-4161(内線3633)

採用ホームページ



Facebook



「事務官」希望者向けに作成している採用パンフレットもぜひご覧ください！



e-Taxキャラクター
「イータ君」



マイナンバー・ロゴマーク
「マイナちゃん」

セレンディピティ、ありましたよね？
セミナー・説明会でお待ちしています。

理工系人材のための
国税庁総合職「事務官」
採用案内